

平成30年9月14日（金）

東北地区工業高等学校総会挨拶

このたび、東北地区の工業高校の校長先生方にご参加いただき、このような会を催すことができましたことは福島県高等学校長協会といたしまして誠に喜びに堪えません。この機会に、様々な先生方との出会いやご教授をいただき、たとえばものづくり大国日本の将来や未来への展開など、これからの工業教育の進展のためにも次なる一步を歩むことができますことは、この上ない喜びであります。このような会の開催を心からお祝い申し上げます。

私は国語教師であります、「ヨーロッパ「近代」の終焉」、であるとか「近代の相克」といった評論を読み進めてきました。科学の進展と人間生活のパラドシカルな状況の中で、現在、内閣府を中心に society5.0（狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。）が提唱されております。

Society 5.0 で実現する社会は、IoT（Internet of Things）で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、これらの課題や困難を克服します。また、人工知能（AI）により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服されます。社会の変革（イノベーション）を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合あえる社会、一人一人が快適で活躍できる社会とされております。

ところで、2年前、工業高校生のものづくり大会で、9尺旋盤を見事に操る女子生徒の姿に感動したことがあります。そのときに思ったことは、技術が発想を支え、発想が技術を革新するというものでした。今後のパラダイムシフトにおいても、間違いなく体感できる具体的なものづくりから変革は進んでいくと私は考えております。

iPhone やインターネットも、具体的な者が目の前にあるところから発想が転換され発展していったと確信しています。

未来を変える様々な人材は、のこぎりやのみの扱いと共に、旋盤や様々な機械を扱う中でよりよい者への創造性の構築によると思います。

幼いときに、のこぎりでいかにまっすぐ上手に切ることができるか、のみを使うことはどんな角度が大切なのか、を体感したことは、電気工具を扱うことにおいても通ずることでありましたし、きっとAI とつきあうこととも繋がることなのではないかと考えます。

是非、具体的な体感と想像力を持てる人材の育成を続けてほしいと個人的には願望するところでもあります。

最後に、各県の高等学校長協会と校長先生方並びに生徒達のますますの発展を心より念じたいしましてお祝いの言葉とさせていただきます。本日は、誠にありがとうございました。